ひと花プロジェクト
世界へ、つながります

ほんとかね
…

ひと花のタネはまかれた

２０１２年西成特区構想はじまる

セーフティネット対策補助金を活用して

２０１３年７月

西成区単身高齢生活保護受給者の
社会的つながりづくり事業スタート

ひと花スタートの背景1（高い高齢化率と人口減少の危機）

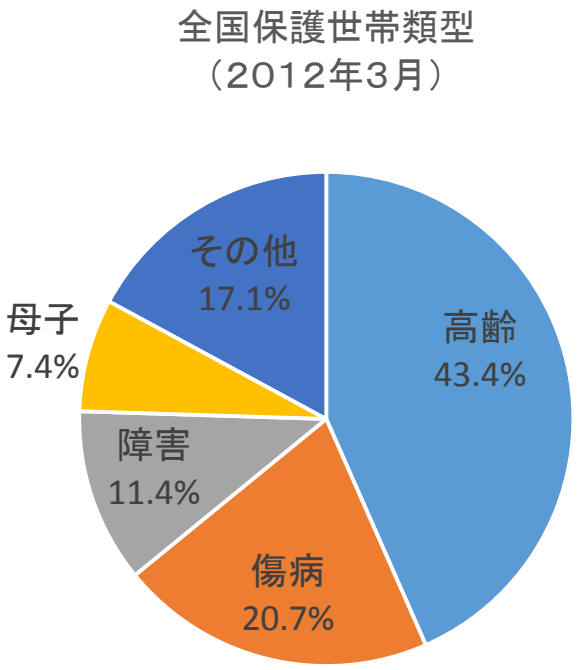
西成区	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
人数	132,767	121,972	117,233	107,986	98,413	89,285	80,884
男性比	58.8%	58.9%	59.3%	59.1%	58.9%	58.7%	58.7%
高齢化率	29.1%	33.8%	40.9%	43.7%	44.0%	44.7%	46.5%

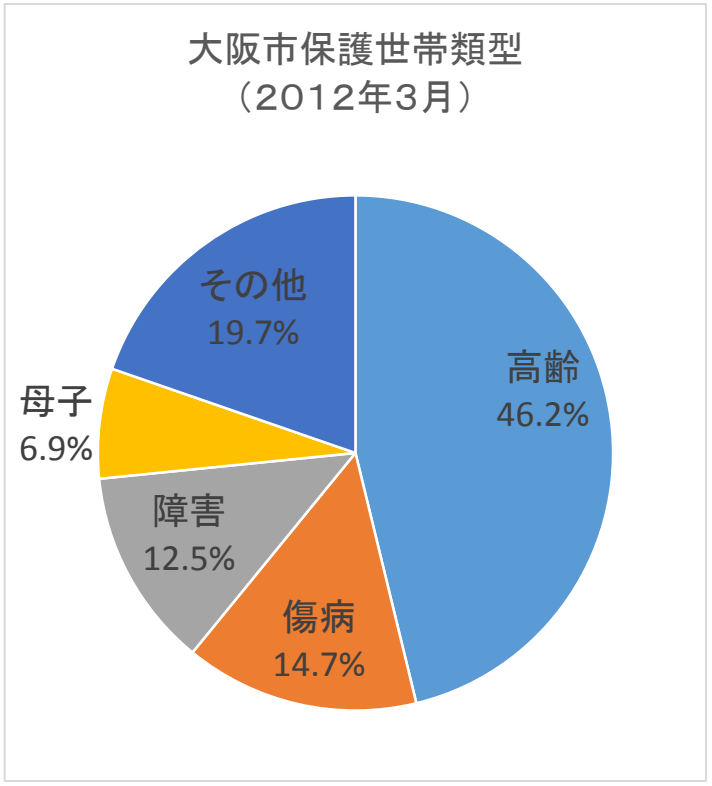
あいりん地域	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
人数	25,241	21,988	18,425	15,610	12,632	9,926	7,757
男性比	84.8%	85.1%	84.2%	82.9%	81.1%	79.2%	77.8%
高齢化率	31.2%	42.0%	53.6%	59.1%	59.2%	57.3%	57.1%

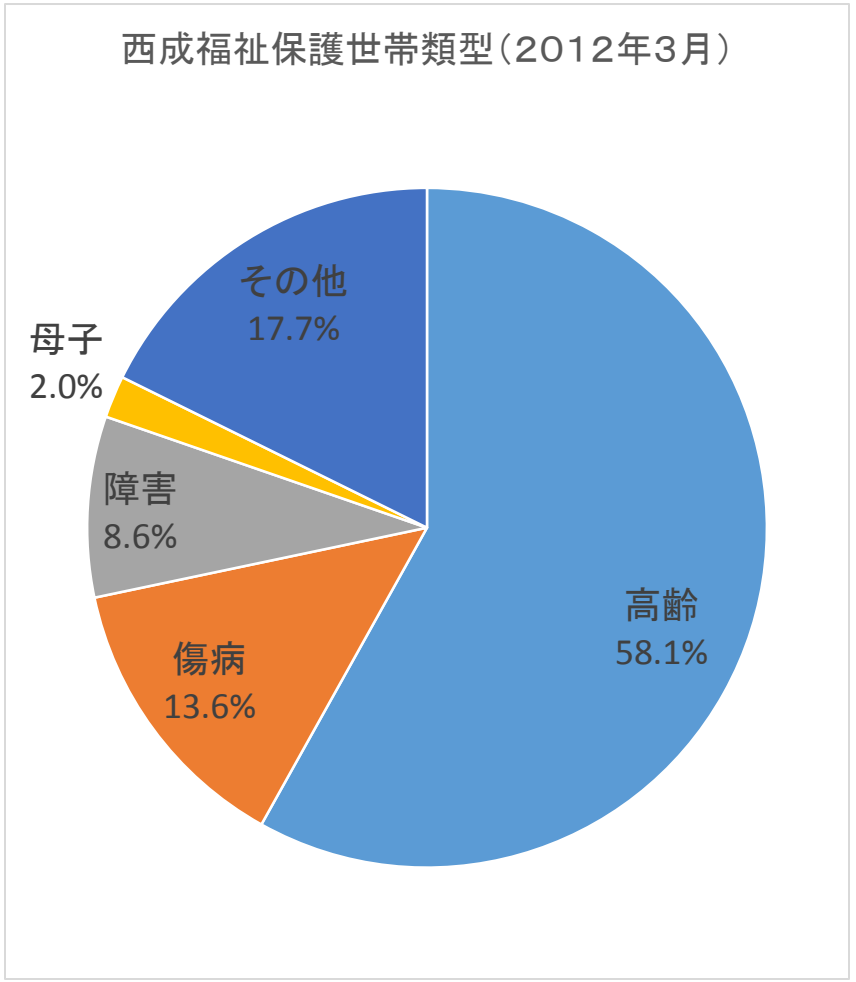
ひと花スタートの背景２（保護率）

	全国	大阪市	平野区	生野区	浪速区	西成区
保護率	17.0‰	56.3‰	70.6‰	72.9‰	93.6‰	231.7‰
何人に1人	59人に1人	18人に1人	14人に1人	14人に1人	11人に1人	4人に1人

ひと花スタートの背景2（高齢者）

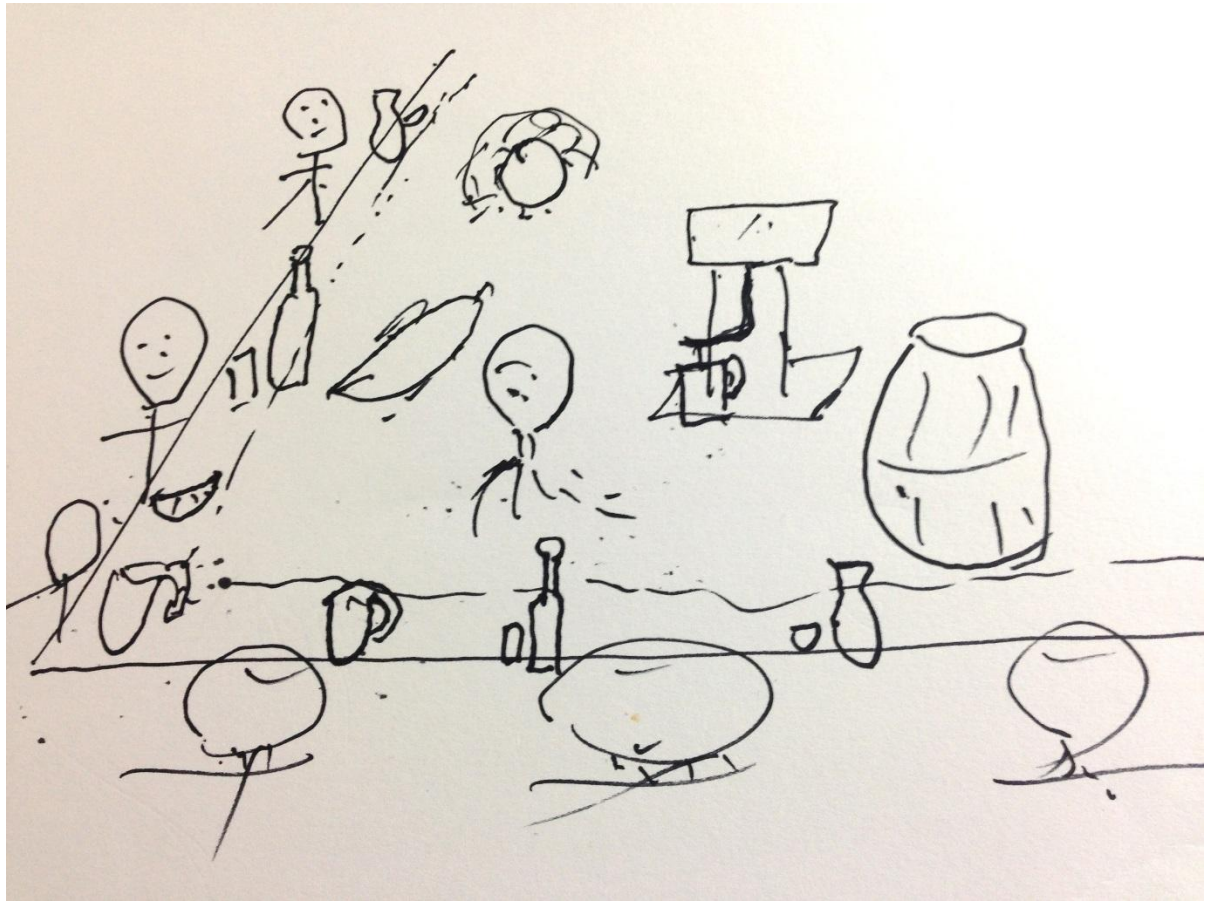






これは、やばいかも

なんとかしよう！



マスコミや社会からの厳しい目

日中からの飲酒をする

パチンコや違法賭博など不適正な
支出が目立つ

貧困ビジネスや薬物売買など
犯罪に関係するケースがある

ケースワーカーを増員して、指導体制を強化したり、現物支給化するといった「北風的」な対策も考えられるが、予算的にも、時間的にも（特区申請に膨大な時間がかかる）、実効性の面からも（イタチごっこになる）、現実性は乏しい

⇒原因に向けた「太陽的」政策を！

・日雇労働や野宿生活をしながら就労をしてきた人が多く、生活保護を受給した途端、やるべきことを失い、時間をもてあましてしまう

・居場所・生きがいの喪失

・狭い居住空間に、孤立して引きこもる生活

西成特区構想有識者座談会報告書　P15

事業の目的

（１）

　親族や近隣住民との交流がほとんどなく、社会的つながりのない状態にある人々に、社会参加（清掃・農作業等）及び生活支援（金銭・服薬管理）のためのプログラムを提供することにより、安定した健康的な生活を過ごし、人とのつながりをもち、自発的に地域社会に参画し、社会参加・社会貢献を行う人材となってもらい、生活自立・社会自立を図ること。

（２）

　（１）により、現在のあいりん地域の固定化されたイメージを変え、若者や子育て世帯の流入を促し、西成区全体の活性化につなげること。

利用者

生活保護法による被保護者で、西成区保健福祉センター所長がこの事業による支援が必要と認めた者であって、プログラムに参加することに同意した者であり、かつ次の要件の全てを満たしている者。

（１）西成区保健福祉センター所長を保護の実施期間の長とする者

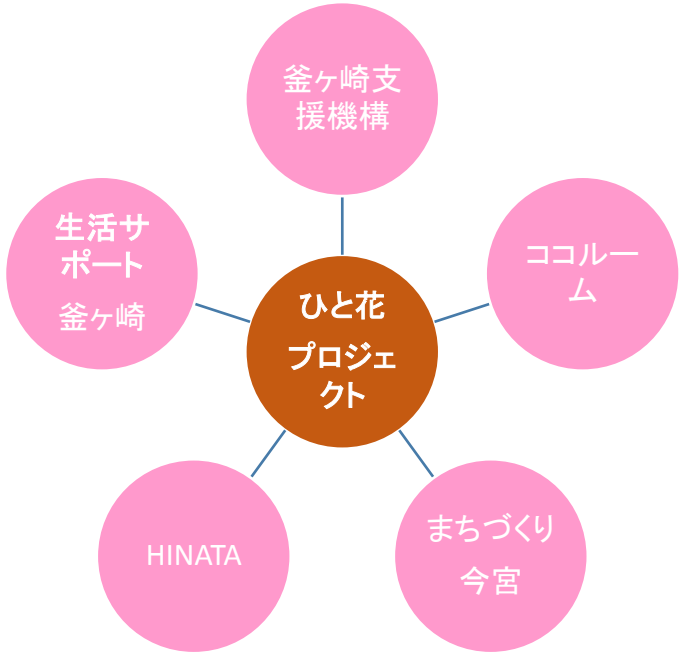
（２）あいりん地域内に居宅を有する者

（３）満６５歳以上の者

ただし、上記（２）の要件を満たさない者であって、交流関係その他の要素から、あいりん地域内に居宅を有する者と同様の状況にあり、この事業による支援が必要であると認めた者を事業対象者とすることがある。

ひと花プロジェクト連合体とは？

釜ヶ崎で活動する小さなNPOが5つ集まる



それぞれ特徴ある活動と得意分野を持っています。

連合体による運営のおもしろさ

団体どうしのかけひき・勢力争い　→民主主義・開かれた決定

決定に時間がかかる　→当事者に決めてもらう

見ている方向がバラバラ　→思わぬ出口・問題解決の発見

実際に動いてみると…

地域・町内会と生活保護受給者・日雇労働者とのかけはしに

世代をこえたつながりづくり

かくれた才能の開花

人とくらべなくても、じぶんのすることがある

出入り自由のポジティビティ

なにかの原理が働いている…？！

もしかしたら、世界で通用するかも…

みなさまの目でお確かめください

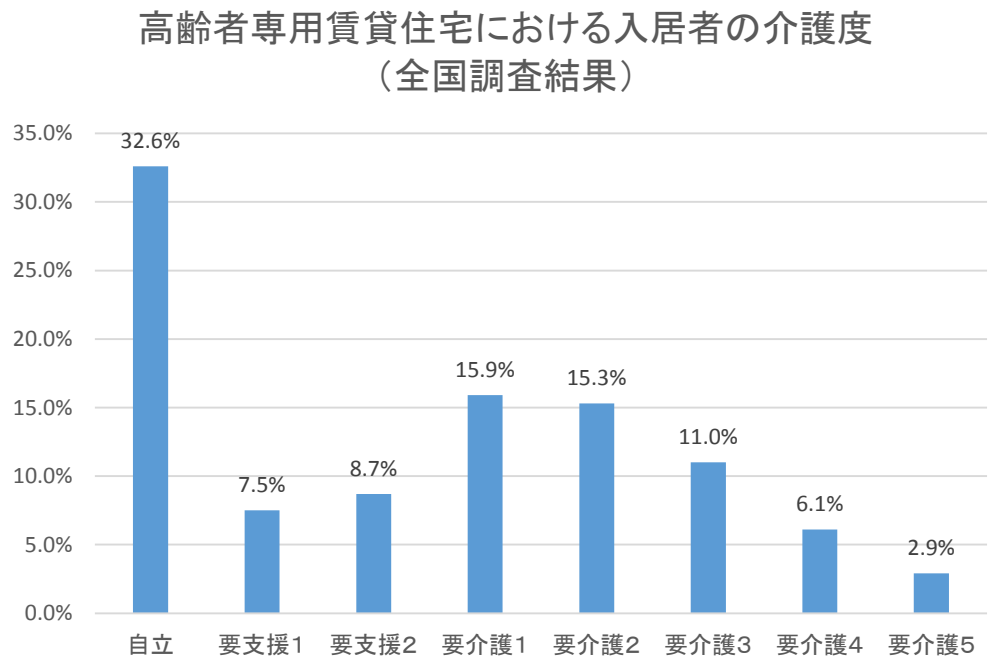
問題提起！

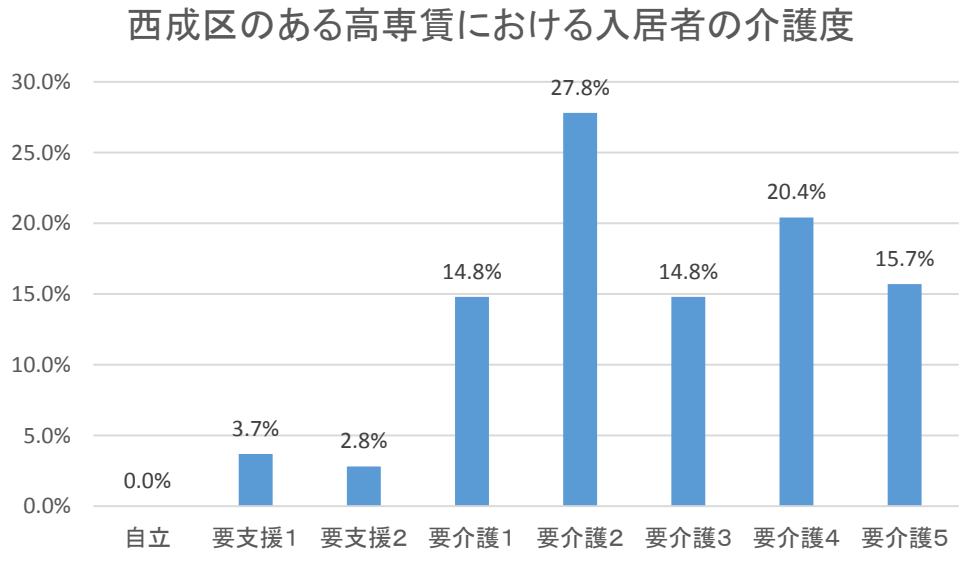
西成区のある高齢者専用賃貸住宅で…

平成25年12月24日改善指導

経済的虐待36件、身体的虐待1件、ネグレクト12件

入居すると、急速に介護度が上がる





支援が必要（手がかかる人）→丸かかえ（手が足らない）→行動の機会を奪う・つながりがへる

⇒病気や認知症の悪化

できることに注目（その人が手）→手が足らないので助けてもらう　→行動の機会が増える・つながりがふえる

⇒健康の維持（医療扶助の抑制）

助けられ、助ける。支援と社会参加のベストミックスをめざす。

実験の場　　それがひと花プロジェクト

少ない財政的ゆとりの中で、面による社会的包摂をめざす。

シェルター

毎日350人～400人の方がシェルターに宿泊

長期利用・高齢化

生活保護に包摂されにくい

特掃やアルミ缶集めなど仕事による一日一日の張りを失いたくない

前に生活保護を受けたことがある、人から話を聞いたなどで、
孤立状態の厳しさを知っている

反失業闘争をふりかえってみた…

社会とのつながりを求め

仕事の場であり

仲間の居場所でもある

平成26年度新シェルター運用開始

昼間の居場所としての活用

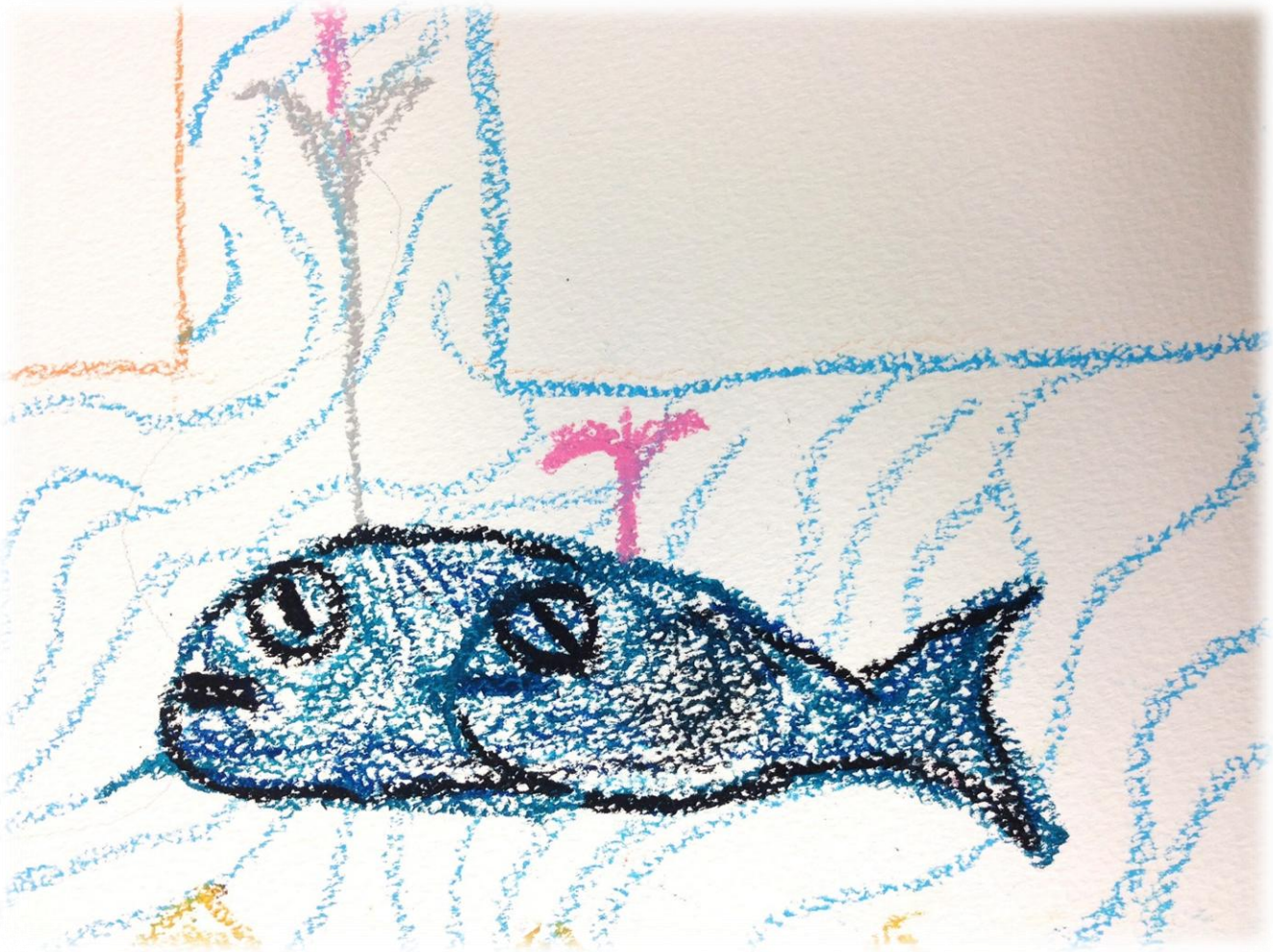
自立へ進んでいける中間的就労づくりが課題

ひと花の方法を
シェルターでも
使えない？

だって、

制度がかわっても

人が求めているものはかわらない



活動したい

認められたい

生まれてきた意味を知りたい

世界につながる
福祉を考えよう

世界につながる
仕事をしよう

もう、ひと花。

がんばってみよう

ありがとうございました